

.

2026 年 1 月 8 日、山梨県上野原市にある扇山で山火事が発生しました。この出来事は、地上からだけでなく人工衛星の画像からも確認されており、扇山周辺に立ちのぼる煙が、風向きに応じて異なる方向へたなびく様子がはっきりと捉えられています。衛星画像では、焼失した範囲や未焼失の境界までは判別できないものの、白く広がる煙の帯が、この山で確かに火災が起きていることを雄弁に物語っています。

扇山（標高 1138m）は、奥武蔵前衛の低山に位置づけられる山ですが、すそ野から山頂までのバランスが良く、どこから見ても整った山容を持つのが特徴です。中央本線や中央自動車道を行き交う車窓からもよく目立ち、日常の風景の中で、知らず知らずのうちに多くの人の視線を受け止めてきました。四季折々に表情を変えながらも、常にそこにある「目印の山」として親しまれてきた存在です。

私にとって扇山は、そうした景観以上に、個人的な記憶と深く結びついた山です。小学生の頃、友達と一緒に登った思い出があり、息を切らしながら歩いた登山道や、山頂付近で見た景色は、今も心の中に残っています。そのなつかしい山が、煙を上げる姿として衛星画像に映し出されているのを知ったとき、強いショックを受けました。

衛星が捉えた煙の広がりや、自然の力の大きさと同時に、身近な山が決して「当たり前」にそこにあり続ける存在ではないことを静かに示しています。扇山が再び落ち着きを取り戻し、記憶の中の穏やかな姿へと少しずつ戻っていくことを、心から願わずにはいられません。

（2026 年 1 月 9 日／衛星画像）

